



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 上レールは仮固定ですので、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。本体が脱落するおそれがあります。
- 吊車は指定のねじで締め付け、ガタツキのないように固定してください。本体が脱落するおそれがあります。
- 本体は把手をもって操作してください。本体と枠のすき間や、本体間のすき間で手や指をはさみケガをするおそれがあります。

■取付け上のおお願い

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締め付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。但し、叩き込まないようにして下さい。保持力低下の原因となります。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠の下地材及び、かい木には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 枠は倒れ、傾き、たいこ、つづみ、ねじれがないように取付けてください。片引枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けしてください。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ（ガムテープ、養生テープなど）を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- 本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさで重量を受けますので、本体重量に耐える断面の梁又はまぐさをご使用ください。上枠及び、上レールの垂れ下がりの原因になります。

間口	本体重量	梁・まぐさの断面寸法（幅×高さ）
6尺	50kg	105mm×180mm以上
9尺	75kg	105mm×300mm以上
12尺	100kg	105mm×360mm以上

- 下レールは、補強材が入っていることを確認してから取付けてください。
- ガイドピボットは、必ず樹脂部に当て木をして押し込んでください。ガイドピボットの破損・変形により、開閉に支障がでるおそれがあります。
- ジョイントレールを取付ける際は、ジョイント部に段差が出ないように注意してください。吊車破損の原因になります。
- ストッパーは簡易固定用です。ぶつかったりすると、本体が開くことがあります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

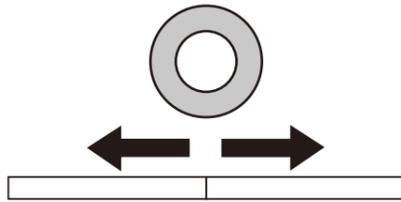
■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

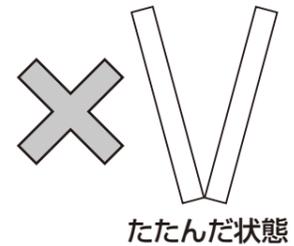
■本体の開閉操作上のお願い

1 本体の開閉方法

- 本体の開閉は右図のように本体をフラットな状態で移動させてください。



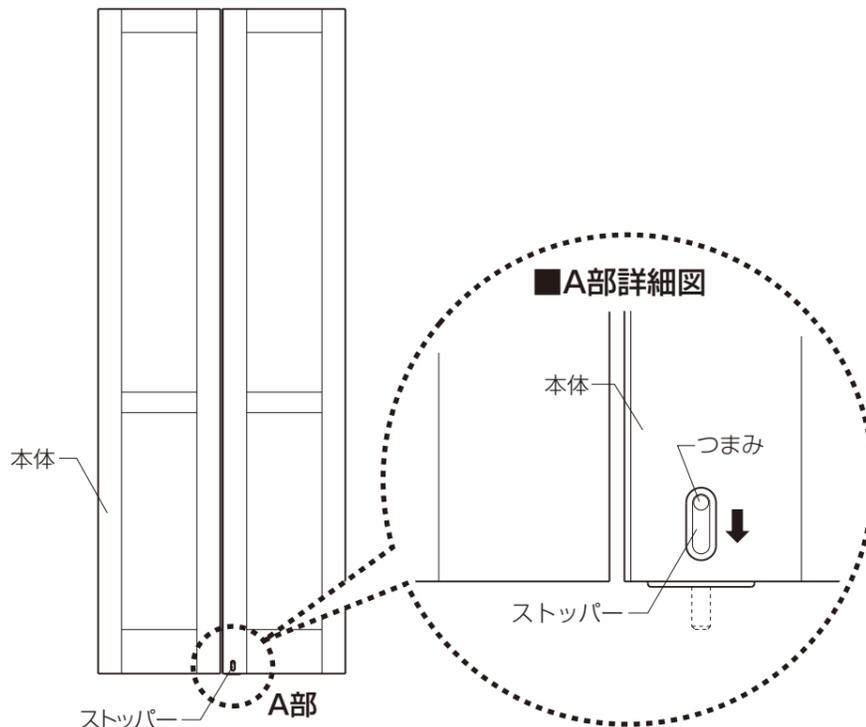
※扉をたたんだ状態では、移動させないでください。動きがギクシャクしたり、ガイドピボットの走行に支障がでたりする場合があります。



2 ストッパーの使用法

- 扉がフラットな状態で任意の位置でつまみを下げると、ロックがかかり本体が開かなくなります。
- ※ストッパーは簡易固定用です。ぶつかったりすると本体が開くことがあります。

●お願い
※扉を閉めた時は、ストッパーでロックしてください。ロックしないと、強風などで扉が開くことがあります。



■部品・部材の明細

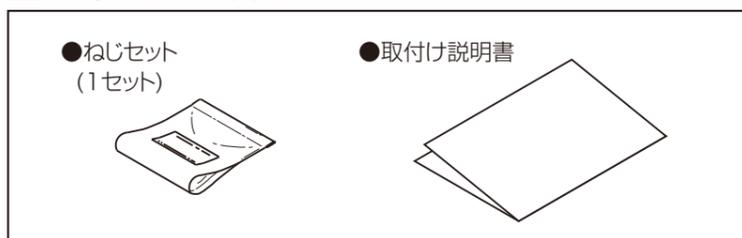
■部材の明細 ※本体・枠セット・ケーシングセット(ケーシングタイプ)は別梱包です。

折れ戸本体	折れ戸用枠	
<p>(1セット)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●上枠(レール付き) ●下レール(1本) ●戸当り(2本) 	<ul style="list-style-type: none"> ●縦枠(2本)
		<p>ケーシングセット(ケーシングタイプのみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ケーシングセット(6本)

■本体用部品<本体同梱>

吊車	ガイドピボット	タッピングスクリュー ねじφ4×55
2	2	(吊車取付け用) 2

■枠用部品<枠同梱>

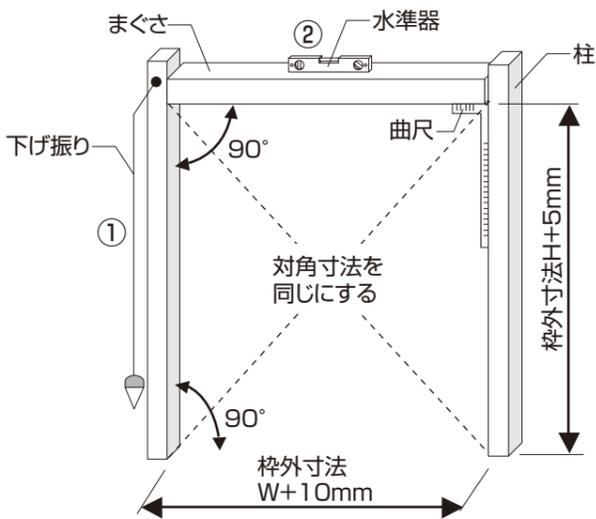


【枠用ねじセット明細】

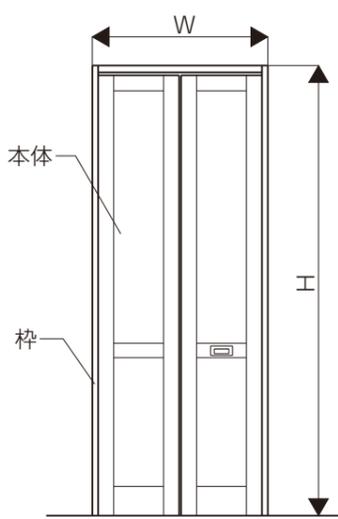
	W16	W24/W25	W34
組立て用 皿小ねじM4×50	4本	4本	4本
上枠取付け用 トラストタッピンねじφ4×50	6本	8本	11本
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6本	6本	6本
下レール固定用 皿タッピンねじφ3.5×20	5本	7本	9本

■開口部の作り方

■開口部寸法の出し方



■製品寸法

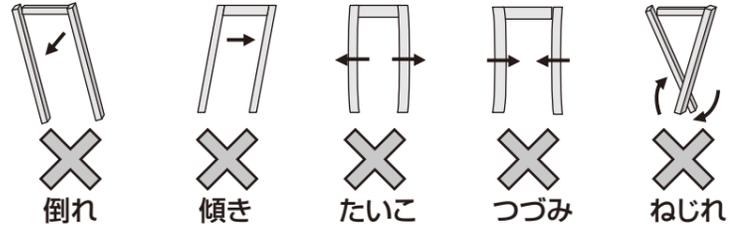


■対応壁厚 (単位:mm)

ケーシング付タイプ	対応壁厚	ノンケーシングタイプ	対応壁厚
薄壁用	111~141	NC156	116~130
厚壁用	142~182	NC171	131~145
		NC180	146~160

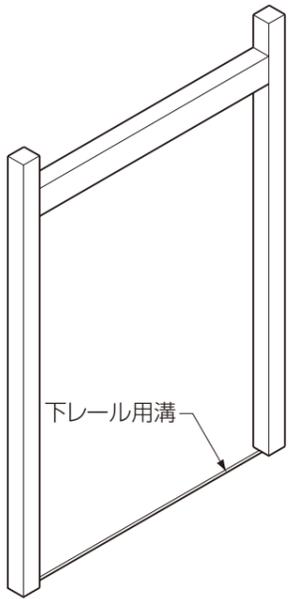
- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
 ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。

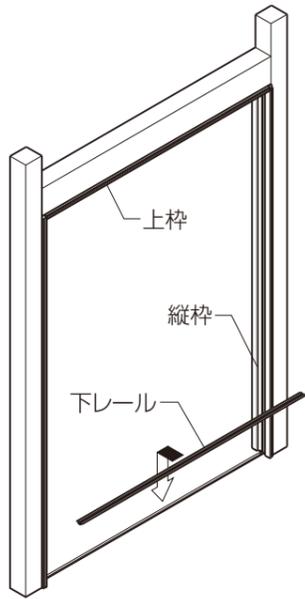


■取付け順序

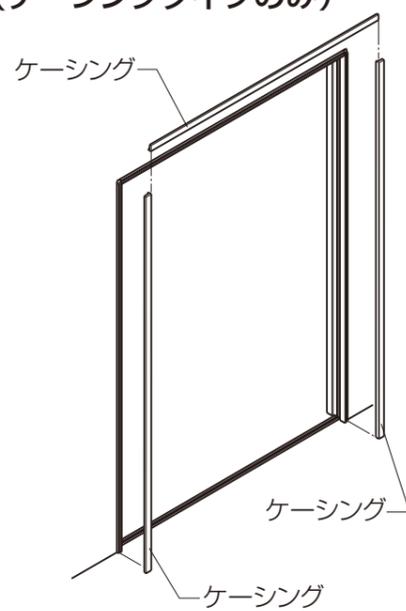
1 開口部の作成・床の施工



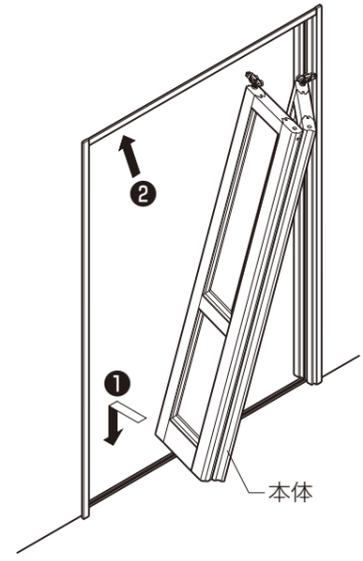
2 枠の組立て・取付け



3 ケーシング材の取付け (ケーシングタイプのみ)



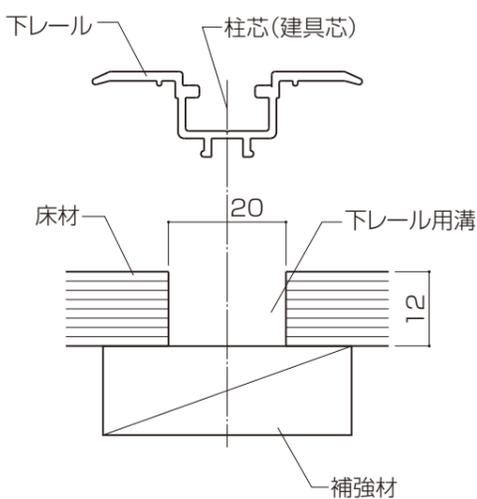
4 本体の取付け 5 建付け調整



■取付け手順

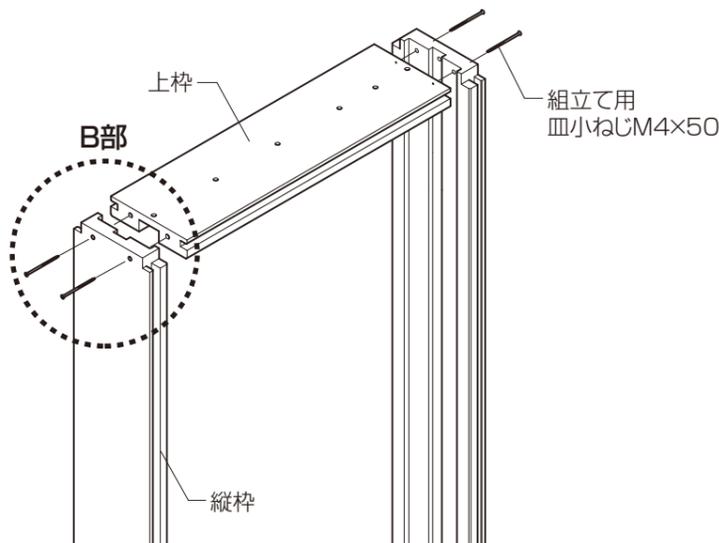
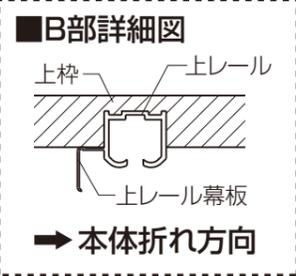
1 開口部の作成・床の施工

- ①製品寸法表から開口寸法を算出し、開口部を作ります。
- ②下レール用溝の加工位置を決めます。
※補強材が入っていることを確認してください。
- ③床を施工します。

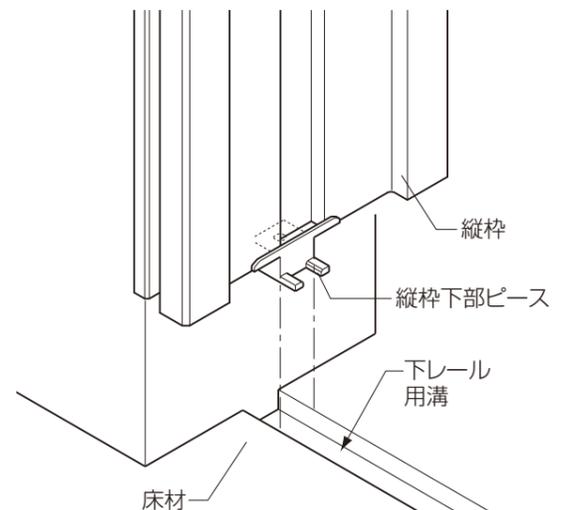


2 枠の組立て・取付け

- ①上枠と縦枠を同梱の組立て用ねじ(皿小ねじM4×50)で組立てます。
※上枠は、左右兼用で取付けられますが、本体の折れ方向は上レール幕板の向きによって決まります。



- ②枠を開口部に入れ、縦枠下部ピースを床の下レール用溝にはめ込んで位置出しします。
※15mmの床材を使用する場合は、下地材(3mm厚)を下レール用溝に取付けてください。



2 枠の取付け

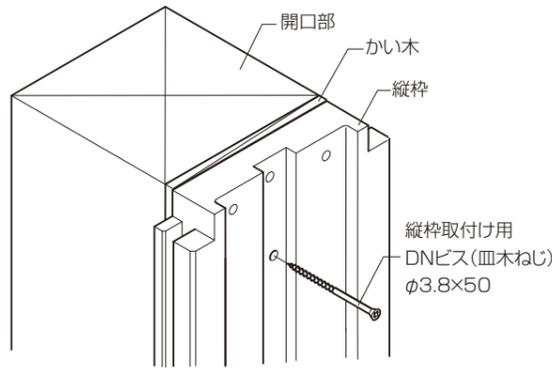
- ① 枠を開口部にはめこんで、上枠の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。
 - ② 下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。
 - ③ 水準器で上枠の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。
 - ④ 下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。
 - ⑤ 枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
- ※ 枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。
- ※ 縦枠の固定箇所を増やしたい場合は、現場手配の木ねじで躯体に固定してください。

お願い

※ 枠の倒れ、傾き、たいこ、つづみ、ねじれがないように取付けてください。

● 縦枠

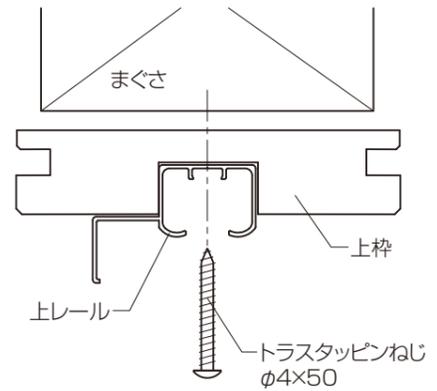
※ DNビス(皿木ねじ) $\phi 3.8 \times 50$ で固定してください。



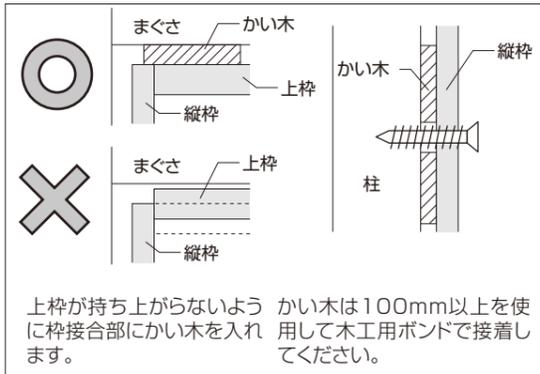
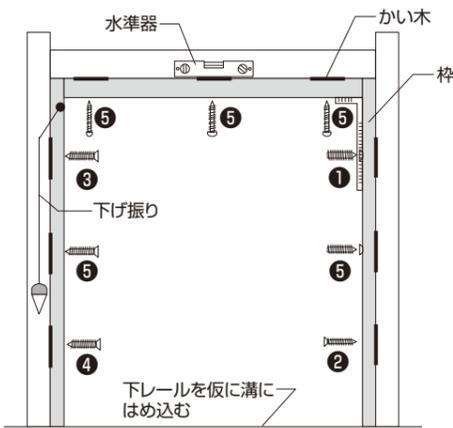
お願い

※ 必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。

● 上枠

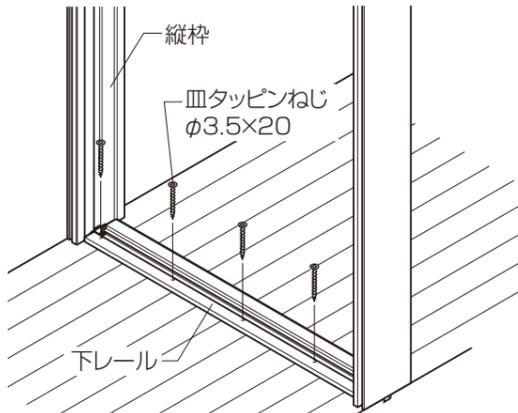


※ ジョイントレール(短いレール)は後で本体を吊込みますので、ねじ止めしないでください。

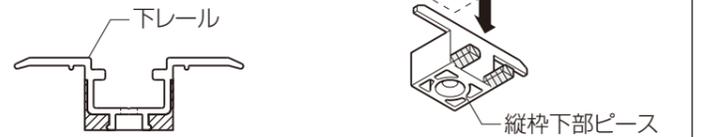


⑥ 下レールの取付け

下レールをねじ(皿タッピンねじ $\phi 3.5 \times 20$)で固定します。この時、下レールと縦枠下部ピースをはめ込んでからねじ止めしてください。下レールの浮き上がりや本体開閉不具合の原因となります。

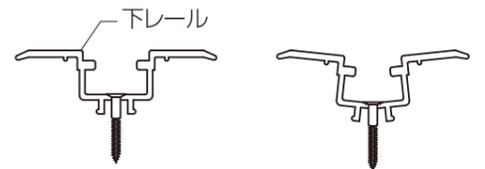


※ 下レールの足(斜線部)が縦枠下部ピースの足(斜線部)の間に下図のように入るように取付けてください。



お願い

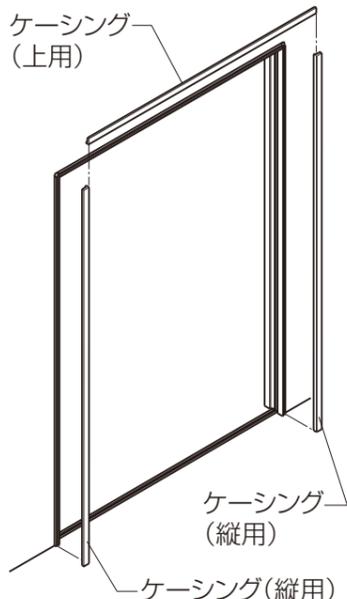
※ 下レールを取付けるねじは締めすぎないようにしてください。下レールが変形し、本体開閉の不具合の原因となります。



3 ケーシング材の取付け(ケーシングタイプのみ)

※ 壁材・床材を仕上げしてからケーシング材を取付けてください。

- ① 別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
 - ② 枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
 - ③ ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
- ※ 仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。

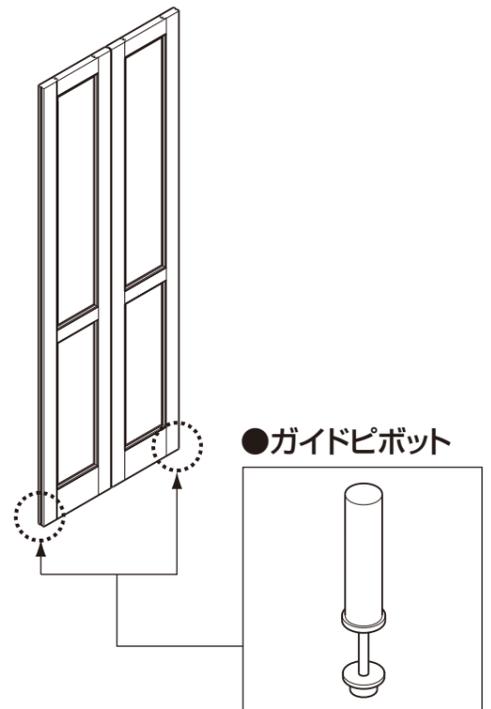
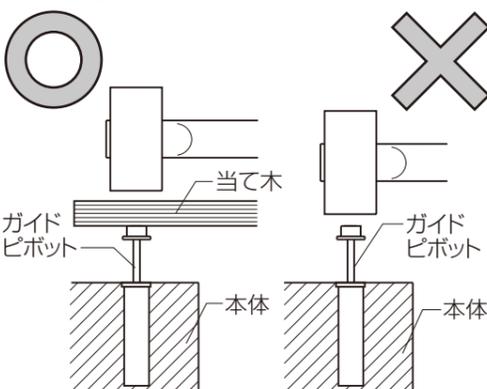


4 本体の取付け

- ① ガイドピボットの樹脂部に当て木をし、本体下部の加工穴にたたき込みます。

お願い

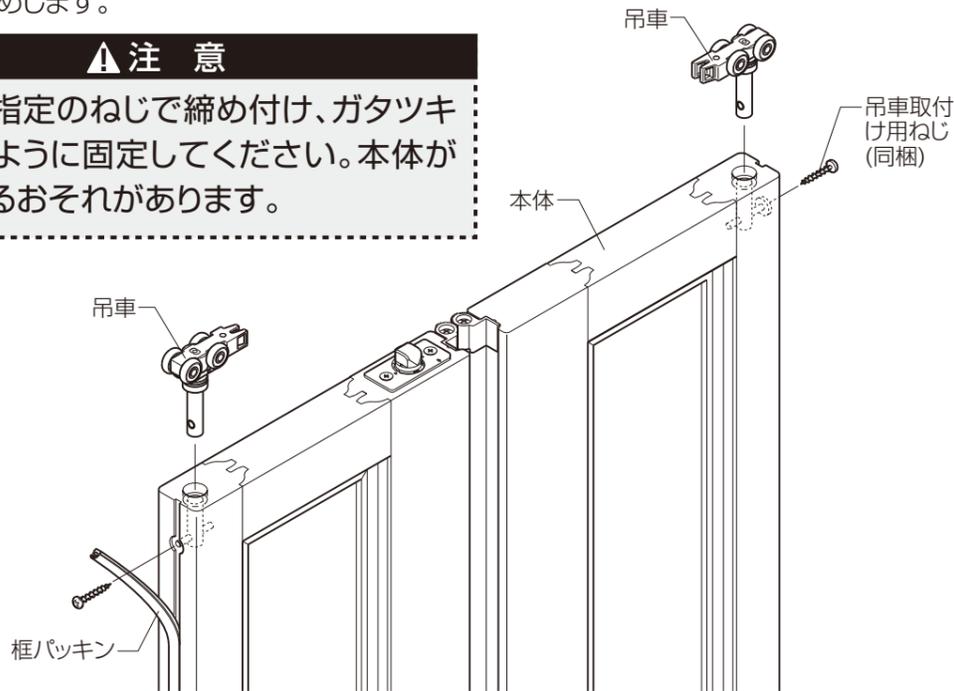
※ ガイドピボットは、必ず樹脂部に当て木をして押し込んでください。ガイドピボットの破損・変形により、開閉に支障が出るおそれがあります。



②本体上部の加工穴に吊車を差込み、**框パッキン**をよけてねじ止めします。

▲注意

●吊車は指定のねじで締め付け、**ガタツキのないように固定してください。本体が脱落するおそれがあります。**

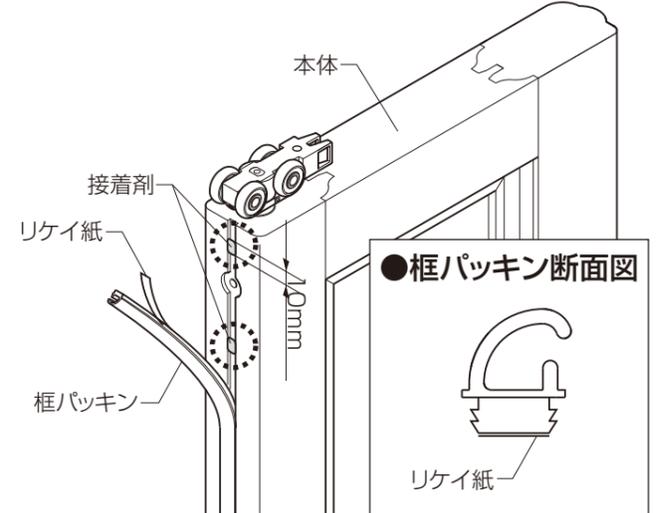


③**框パッキン**取付け部の先端と中間部(下図参照)に、**接着剤**(現場手配)を10mmほど塗布します。

※はみ出さないよう塗布量を調整してください。

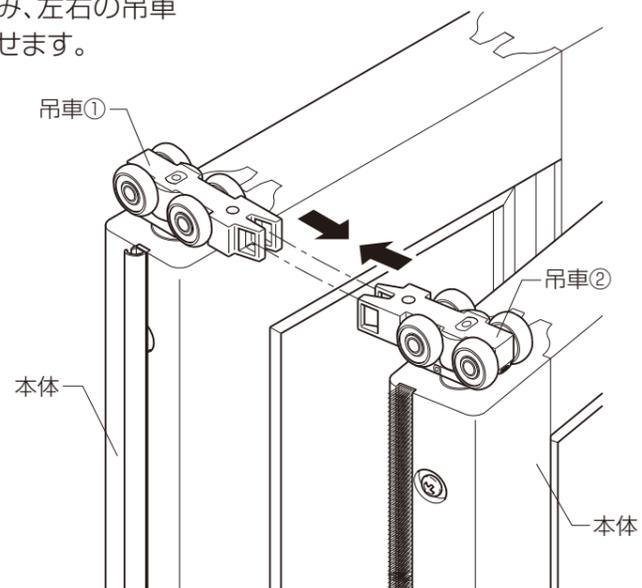
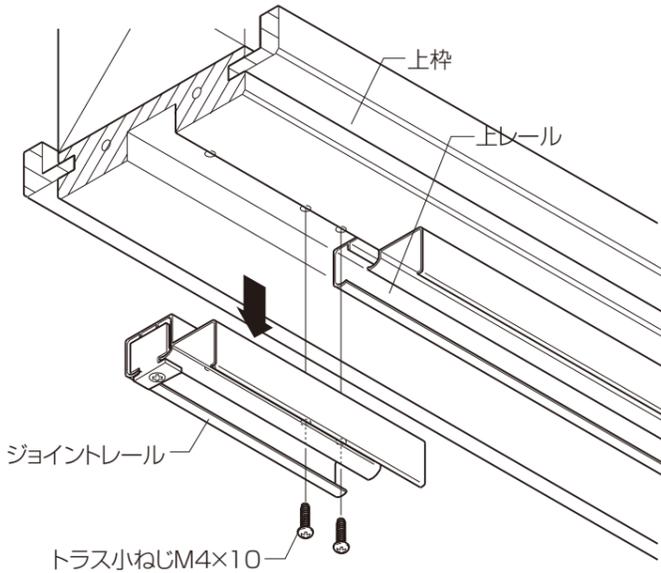
④**框パッキン**の**リケイ紙**をはがし、本体上部に張付けます。

※必ず**マス킹テープ**などで仮固定し、接着剤が完全に固まるまで1日程度扉を閉めないでください。

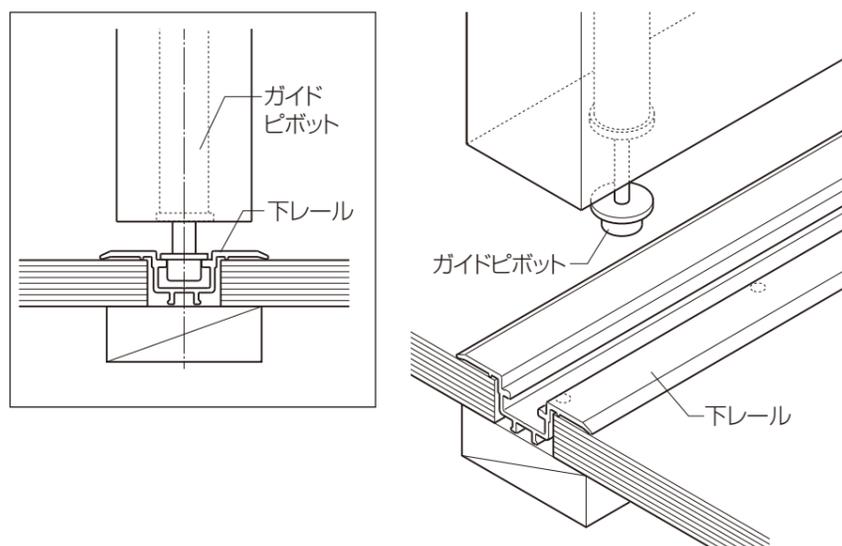


⑤**トラス小ねじ**を外し、**上枠**の**ジョイントレール**を外します。

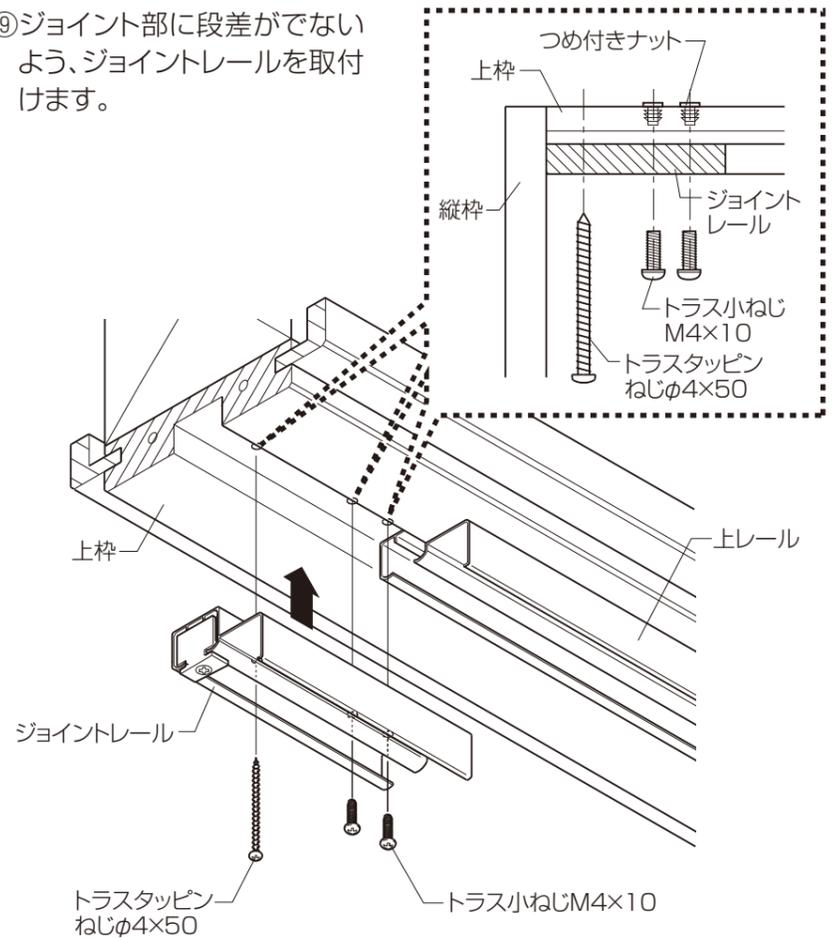
⑥本体を折りたたみ、**左右の吊車**同士をかみ合わせます。



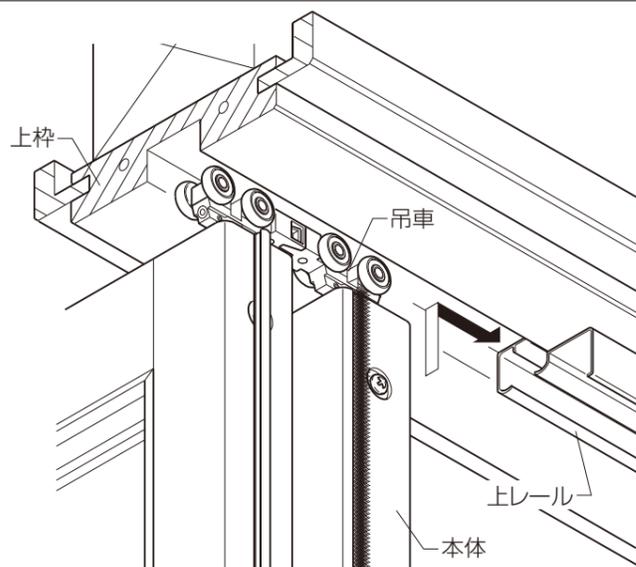
⑦**ガイドピボット**を、**下レール**に差込みます。



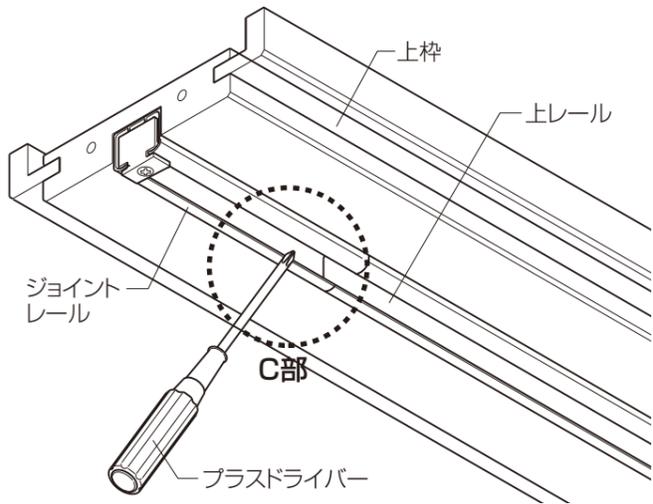
⑨**ジョイント部に段差がないよう**、**ジョイントレール**を取付けます。



⑧**上レール**端から、**吊車**を差込みます。

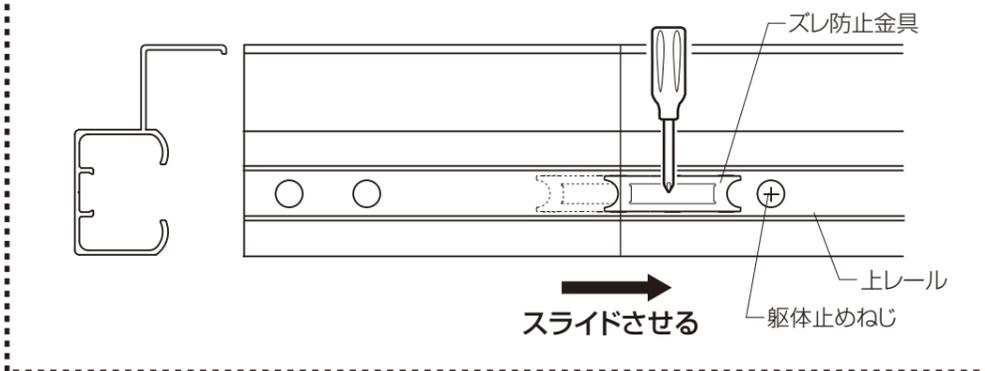


⑩ジョイントレール取付け後、ズレ防止金具をスライドさせます。



■C部詳細図

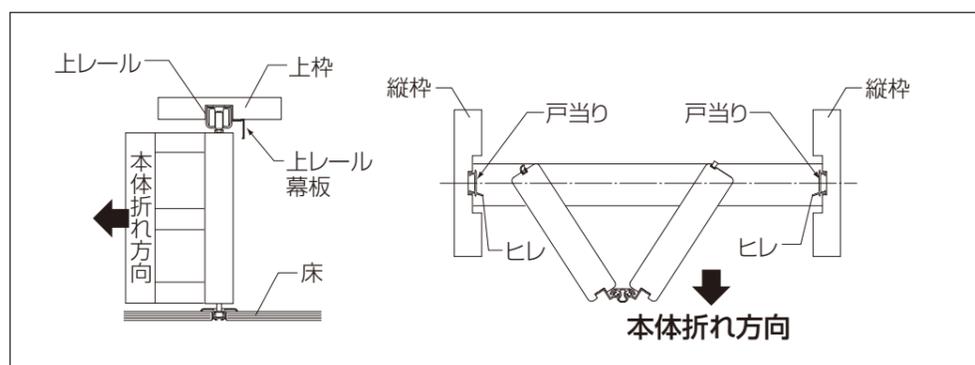
※前後のズレを手で合わせ、プラスドライバーでスライドさせます。



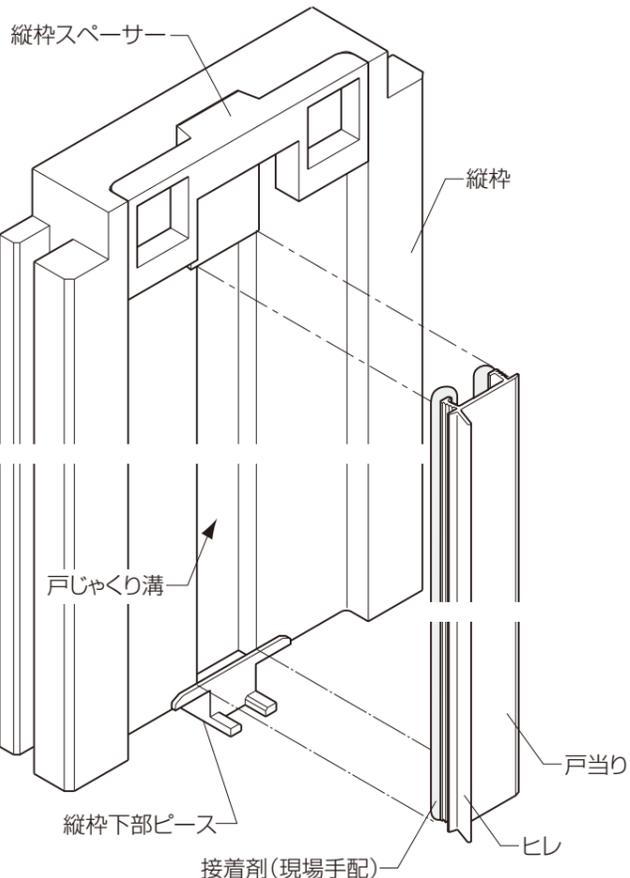
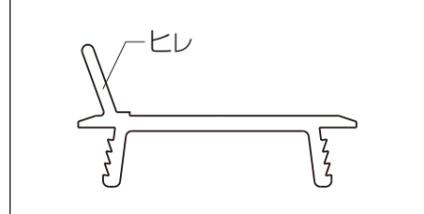
⑪戸当りに接着材(現場手配)をつけて下図に従い、本体の折れる方向にヒレを向けて取付けてください。

※ボンドがはみ出さないよう塗布量を調整してください。

※逆にすると本体の開閉に支障がでるため、必ず正しい向きにしてください。



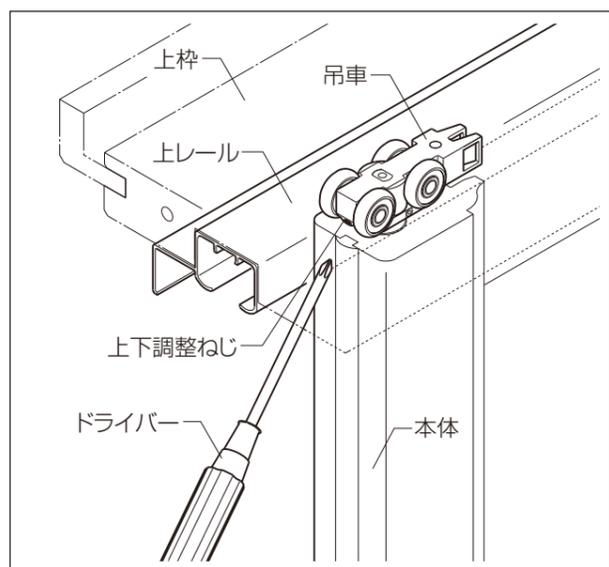
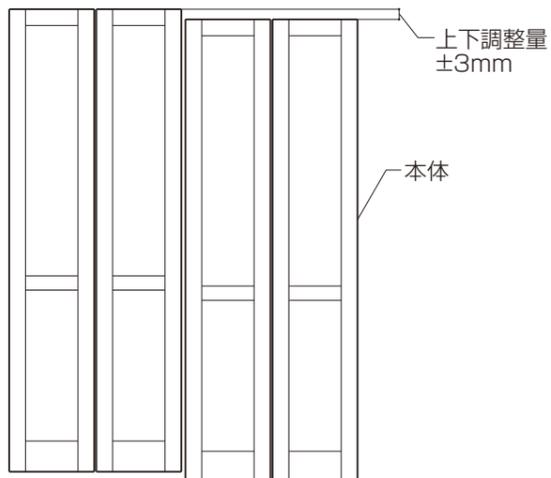
●戸当り断面図



5 建付け調整

〈上下方向の調整〉

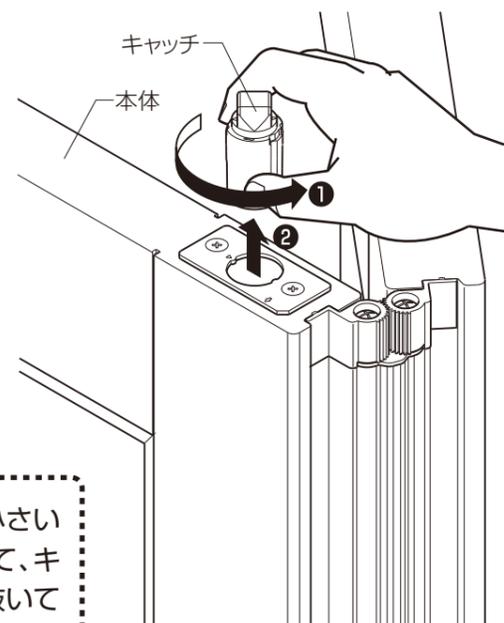
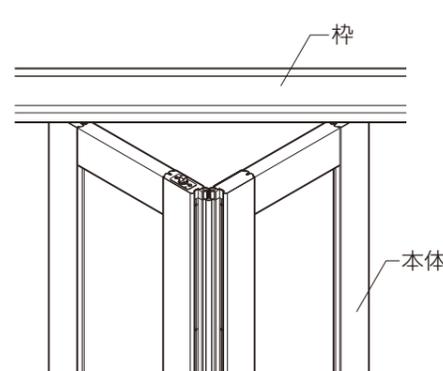
●本体が段違いになった場合は、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回して調整してください。



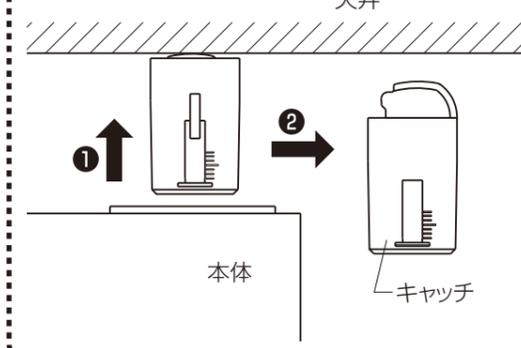
〈本体の振れ止め調整〉(キャッチの上下調整)

①本体を開けてください。

②キャッチのヘッドを左に回してロックを解除して、キャッチを上引き抜きます。



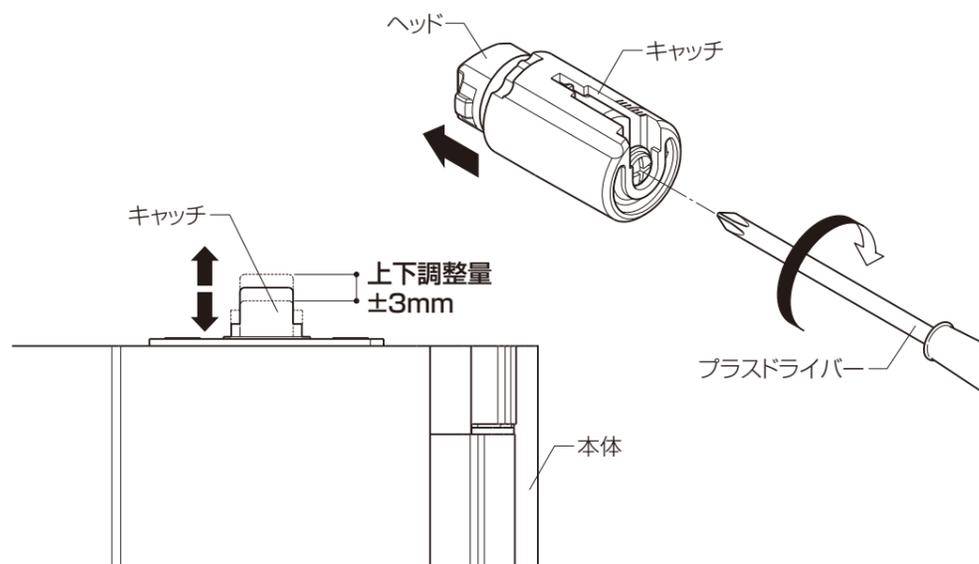
●お願い
※天井と本体上端とのスペースが小さい場合は、キャッチを天井に押付けて、キャッチ全長を短くした状態で横に抜いてください。



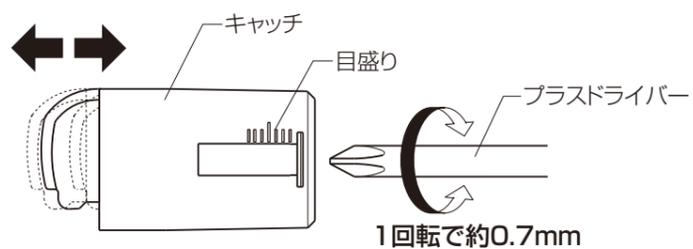
③キャッチ下面の調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。

※時計回りに回すとキャッチのヘッドが上がります。

●キャッチ力が弱いとき。	時計回り
●キャッチにガタツキがあるとき。	
●キャッチ力が強いとき。	反時計回り
●キャッチが上枠に当り、本体を閉めることができないとき。	



※ねじ1回転で約0.7mm上下します。キャッチ側面の目盛りを目安にして調整してください。

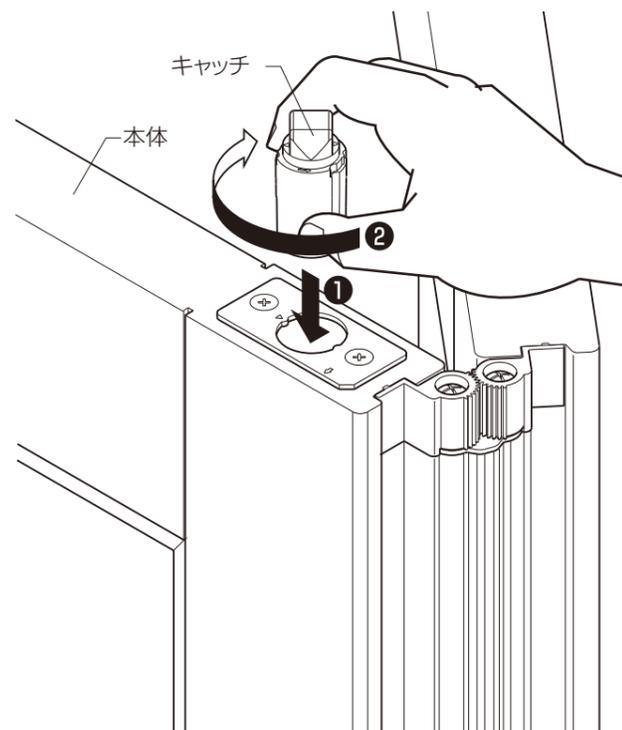


④キャッチを取付け穴に差込み、キャッチのヘッドを右に回してロックしてください。

※ヘッド取付け向きの間違い防止のため、押え板の突起の位置とキャッチの切欠きの位置を合せて差込んでください。

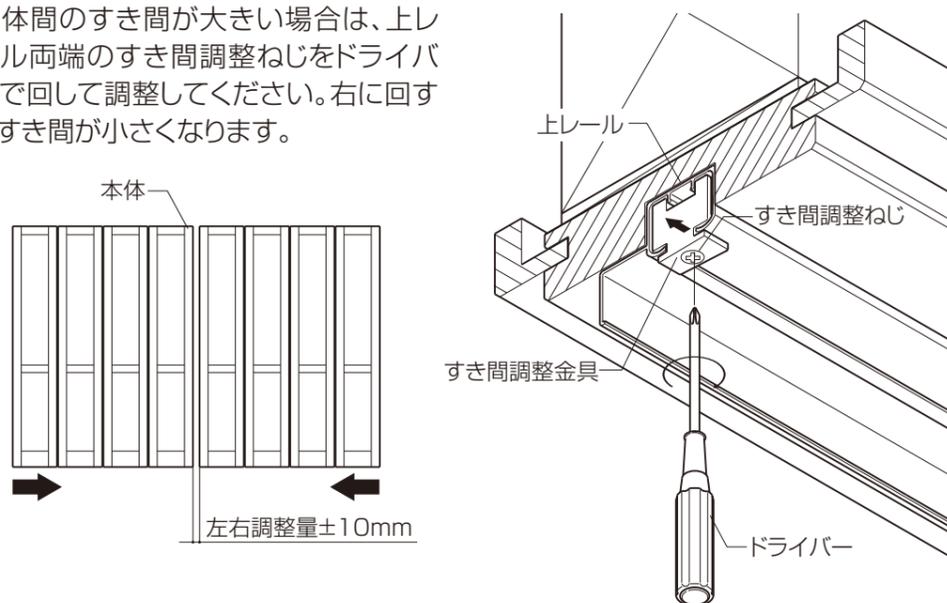
お願い
※必ず「カチッ」という手応えを感じるまで右に回してください。キャッチのロックが不完全な場合、キャッチが破損するおそれがあります。

⑤本体を閉めて、キャッチの掛かりを確認してください。問題がある場合は、①～④の作業を繰り返してください。



〔左右方向の調整〕

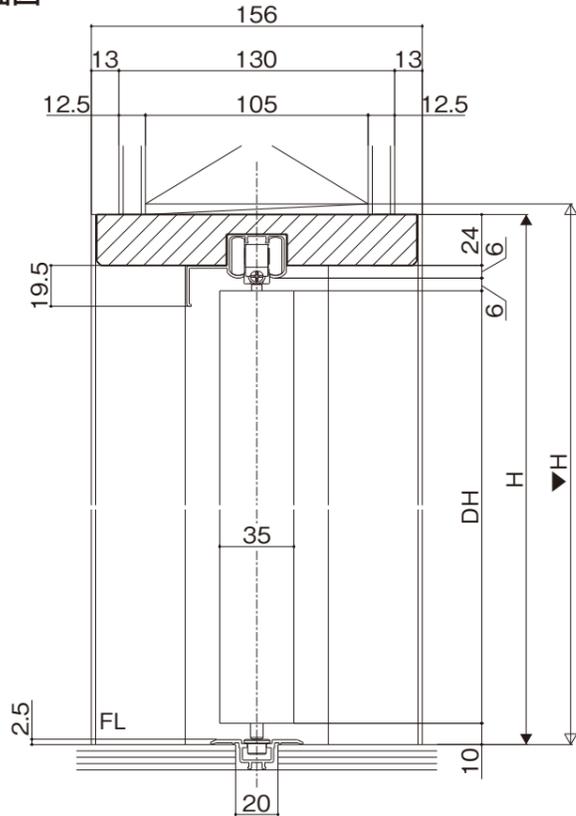
●本体間のすき間が大きい場合は、上レール両端のすき間調整ねじをドライバーで回して調整してください。右に回すとすき間が小さくなります。



■納まり図

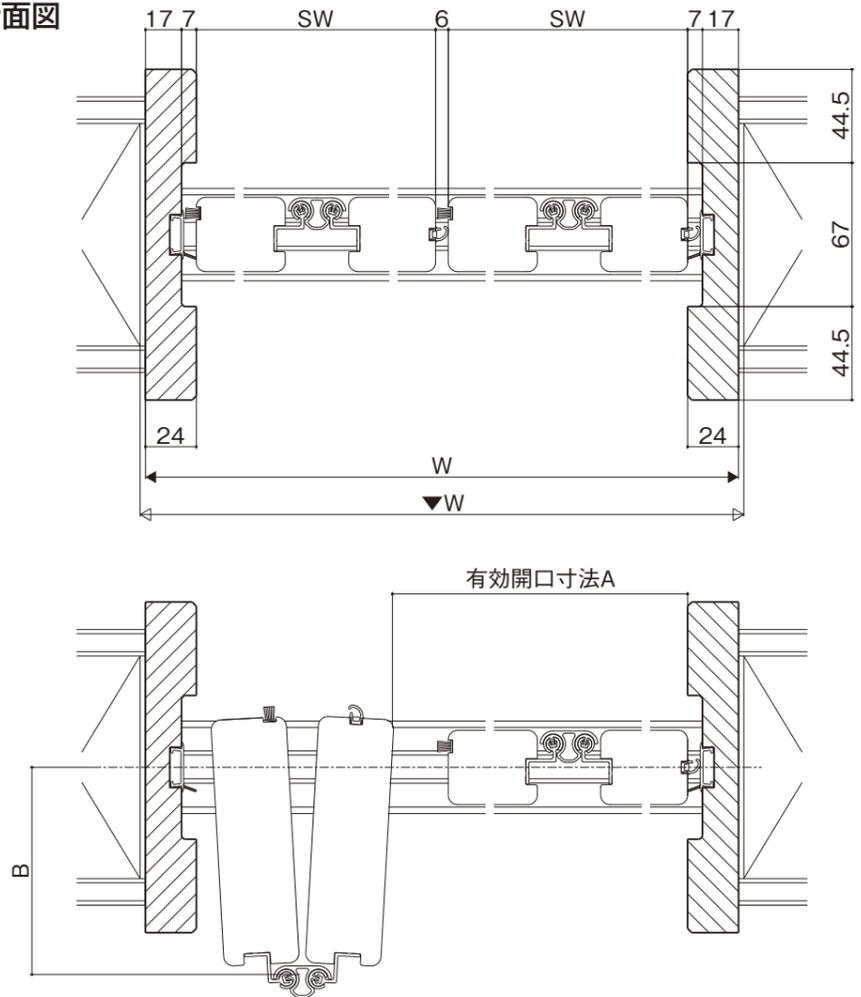
■可動間仕切り折れ戸ユニット ノンケーシング

●縦断面図



※枠見込み寸法が変わっても、下レールの位置は、縦枠センター位置となります。

●横断面図

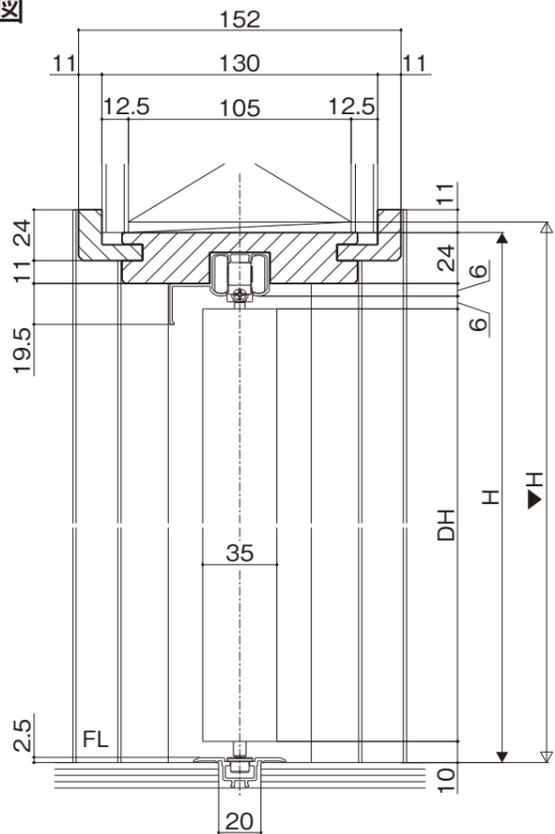


W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	1369	375
W25(2550)	2161	392.5
W34(3386)	2882	392.5

基本寸法 (mm)	W呼称	16	25	34
	W (DW)	1644(795)	2550(830)	3386(830)
	H呼称	23	-	-
	H (DH)	2306(2260)	-	-

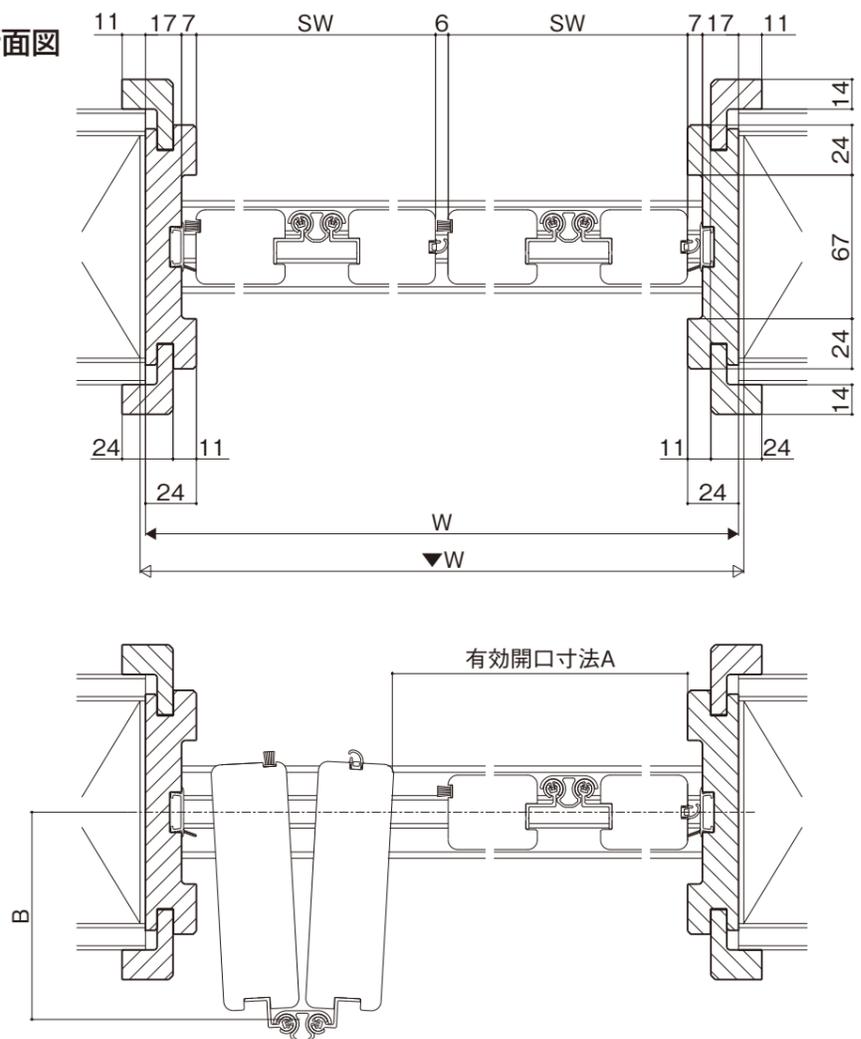
■可動間仕切り折れ戸ユニット ケーシング付

●縦断面図



※枠見込み寸法が変わっても、下レールの位置は、縦枠センター位置となります。

●横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	1369	375
W24(2445)	2056	375
W34(3386)	2882	392.5

基本寸法 (mm)	W呼称	16	24	34
	W (DW)	1644(795)	2445(795)	3386(830)
	H呼称	23	-	-
	H (DH)	2306(2260)	-	-